

平成26年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 生徒に学力を身につけさせるため、教員間の学び合いを通して授業内容の充実と努めるとともに、家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質向上に努める。	① ICT機器の活用を通して、工夫された授業を展開し、学習効果の向上をめざす。	教務課 各教科	1,2年生の各教室に常設型のプロジェクターが設置され、活用されている。(昨年度の活用率65%)	【努力指標】(教員) 教科での研修を活発に行い、ICT機器を授業に活用する体制を確立する。	授業にICT機器を活用している教員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 65%以上 D 65%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
		教務課 各教科	ICT機器は活用されているが、生徒への学習効果について検証する必要がある。	【満足度指標】(生徒) ICT機器の活用により、生徒が授業に主体的に取り組むようになり、学習効果が高まった。	ICT機器の活用により主体的に取り組む、学習効果が高まると感じている生徒が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。	教務課 各教科	昨年度は1,2年生の63%が平日の家庭学習時間が120分以上であったが、予習・復習等を含め、家庭学習について生徒に具体的な指示をしていく必要がある。	【成果指標】(生徒) 質および量ともに充実した家庭学習の習慣が確立されている。	1,2年生で平日の平均家庭学習時間が120分以上である生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
		教務課 進路指導課 各学年 各教科	昨年度は1,2年生ともに目標値には届かなかった。家庭学習と授業内容を連動させ、よりきめ細かい学習指導に取り組む必要がある。	【成果指標】 きめ細かい学習指導に取り組むんだ結果、生徒の成績が上昇した。	1,2年生の英数国の学力試験全国偏差値54以上の生徒が A 55人以上 B 45人以上 C 35人以上 D 35人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	9月、3月に評価する。
	③ 朝学習の充実により、学びにむかう主体性を身につけ、学びの質を高める。	各学年 各教科	朝学習としての10分間は定着しており、集中して取り組む姿勢、内容の理解と定着、発展的学習へのつながりを意識した取組の段階にきている。	【満足度指標】(生徒) 生徒自身が積極的に朝学習に取り組む、学力や教養が身についたことを実感している。	朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
2 個別面談や学習活動を通したきめ細かな指導により生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	① 進路検討会を充実させ、それを基にして生徒面談を行い、1ランク上の志望をもたせることにより学習意欲と学力の向上を図り、進路希望の実現率を高める。	進路指導課 3年	昨年度は、国公立大学の現役合格者は44名であった。過去5年間では一昨年(54名)に次ぐ成績であったものの、目標とする60名には及ばなかった。また、難関私立大学への志願者も少なく、合格者は14名にとどまった。	【成果指標】 授業と補習や個別添削などを効果的に結びつけた指導により、センター試験だけではなく、個別試験にも対応できる学力がついた。	模擬試験の各教科(科目)の結果が A 平均偏差値50以上 B 平均偏差値48以上 C 平均偏差値45以上 D 平均偏差値45未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	9月、11月に評価する。
				【成果指標】 国公立、難関私立大学への志願者数を増やし、合格者数を増やす。	国公立大学合格者数が A 75人以上 B 70人以上 C 60人以上 D 60人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。
				【成果指標】 難関私立大学合格者数が A 25人以上 B 20人以上 C 15人以上 D 15人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。	
	② 時期に応じたクラス全体の指導や個人面談などをきめ細かにを行い、生徒の進路意識を高め早期に目標を設定させる。 設定した目標実現のため、自ら学習時間を確保するよう意識付けを行う。	進路指導課 2年 1年	生徒の進路に対する意識は高くなく、大学に関する知識も多くない。また、志望校と現在の学力および学習習慣がかみ合っていない。生徒の進路意識を高める取組を時期に応じて適切に行い、早期に一段上の進路目標を持たせ、進路実現に主体的に取り組ませる必要がある。	【満足度指標】(生徒) 進路学習や面談、学習のアドバイスなどの進路指導により学習意欲が高まり、多くの生徒が高い進路志望を持つようになる。	進路指導により、(1年)目標とする大学が決まっている(2年)志望校が決まっていると答えた生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以下の場合 は、改善策を 検討	7月、12月の 学校評価にて 評価する。

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
3 部活動や生徒会活動の活性化に努め、チャレンジ精神の涵養を図るとともに、喜びや感動を共有できる教育活動を展開し、明るく活力ある学校づくりを推進する。	①	総務課	昨年度は、保護者が学校行事やP T A活動で来校した回数の平均が3.1回であった。また、4回以上来校した保護者は35%と低い値である。	【成果指標】（保護者） 多くの保護者が学校行事等に積極的に参加している。	学校行事やP T A活動で保護者が来校した回数の平均が A 5回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 3回未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	②	生徒課各部	昨年度の部活動加入率は86.7%であり、一昨年度の84.8%より若干上昇しているが、依然として未加入生徒も存在していることから、これらに対して適切な指導が必要である。	【成果指標】（生徒） 多くの生徒が部活動に加入し、活発に活動している。	1, 2年生の部活動の加入率が A 90%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満	Dの場合は改善策を検討	12月(新人後)に評価する。
			昨年度は、チャレンジ目標を達成したとする部が86.7%で非常に高い値であった。今年度は各部においてさらに高い目標を設定して、その目標実現のためのチャレンジ精神を育てていきたい。	【成果指標】（教員） 多くの部活動において、各種大会や活動で1つ上のチャレンジ目標を設定し達成している。	チャレンジする目標を達成できた部の割合が A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 50%未満	Dの場合は改善策を検討	6月(総体・総文後)、12月(新人後)に評価する。
	③	生徒課	昨年度1日目(模擬店等)の外部からの入場者数は560人であり、年々上昇傾向にある。地域への広報活動等や内容を充実させることにより来場者数の増加を図る。	【成果指標】 地域への広報活動と、内容の充実により、1日目の来場者数が増加した。	1日目の来場者数が A 600名以上 B 500名以上 C 450名以上 D 450名未満	Dの場合は改善策を検討	9月に評価する。
	④	図書課	地域の保育所や小学校での本の読み聞かせ、中学校や市立図書館での本の紹介カードの展示等、地域と連携した活動は好評で、生徒の自信にもつながっている。	【成果指標】（生徒） 地域と連携した図書委員会活動において、生徒が積極的に活動し情報を発信した。	地域と連携した図書委員会活動の回数が A 年間6回以上 B 年間5回 C 年間4回 D 年間4回未満	Dの場合は、改善策を検討。	年度末に評価する。
⑤	保健体育科	5月から11月にかけて新体力テストが向上した生徒は昨年度は59%であり、生活の中で運動時間の減少と体力の低下傾向がある。	【成果指数】（生徒） 体育の授業で毎時間体づくりの運動を実施することにより、生徒の体力が向上した。	1, 2年生の新体力テスト(シャトルラン)で、1回目より向上した生徒の割合が A 70%以上 B 65%以上 C 60%以上 D 60%未満	Dの場合は、改善策を検討	5月(1回目)のデータと11月(2回目)のデータを比較し評価する。	

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
4 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する心豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりとできる人間の育成を図る。	生徒課 各学年	生徒の自己評価では「挨拶をすることができた」が64%と昨年よりも10ポイント下がった。積極的に大きな声であいさつのできる生徒は少ない。教師側からの積極的なあいさつも必要である。	【成果指標】(生徒) 毎日、積極的に大きな声で挨拶をする生徒が増えている。	生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、挨拶を自分からすすんでしっかりとすることができたと答えた生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	生徒課 各学年	自転車事故の件数が一昨年13件、昨年18件と増加している。自転車の左側通行を定めた改正道路交通法の周知を図り、ルールを遵守する意識を徹底していく必要がある。昨年度「よく遵守している」と答えた生徒は63.9%である。	【成果指標】(生徒) 自転車運転のルールとマナーの必要性を認識し、交通ルールを遵守する生徒が増えている。	交通ルール(自転車の二人乗りや携帯電話を操作しながら等の運転をしない)を遵守している生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。情報の収集・共有を密に行い、困難を抱えている生徒に対して早期に対応・支援する。	相談室 生徒課 各学年	生徒は落ちついた生活を送っているが、さまざまな困難を抱えた生徒がいると同時に、ネット等の利用で生徒同士の人間関係が見えにくくなっており、全職員が個々の生徒の状況を把握し、生徒の変化に早期に対応する必要がある。	【努力指標】(教員) 各種調査や担任との情報交換などで、支援を必要としている生徒をしっかり把握し適切な対処をしている。	生徒の変化に対して素早く察知し、対応することができた教職員の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以下の場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	④ 学校内外のボランティア活動への自発的な参加を促す。	生徒課 各学年	昨年度はボランティア活動に3回以上参加した生徒は14.9%であった。部活動や生徒会執行部が企画し、積極的に参加している生徒も多いが、地域の方との結びつきを強めながら参加形態を見直す必要がある。	【成果指標】(生徒) 学校全体や部として取り組んだボランティア活動に、自発的に参加する生徒が増えている。	ボランティア活動に、参加した生徒の割合が、 A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑤ 図書便りなどによる図書案内、朝読書、ピブリオバトルなど各学年団と連携した読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。各学年団と連携し、生徒に読書に親しむ習慣を身に付けさせる。	図書課 各学年	昨年度は読書への意欲を高めるため、図書館報と図書便りを計9回発行した。また、一斉読書指導や1年生には朝読書を実施したが、貸し出し数は生徒一人あたり5.8冊であった。本年度は、一斉読書を継続させるとともに、総合的な学習の時間と連携し、読書に主体的に取り組めるようにしたい。	【成果指標】(生徒) 読書に親しむ生徒が増え、図書館利用が増えている。	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が A 7.0冊以上 B 6.0冊以上 C 5.0冊以上 D 5.0冊未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。
	⑥ 環境にやさしい行動を、意識して取り組むことができる生徒の育成を図る。	保健環境課 各学年	いしかわ学校版環境ISO認定校として、ゴミの分別・節電・節水に取り組むことで生徒の環境に対する意識は徐々に高まっている。節電・節水については、意識して行動をしている生徒が増えてきている反面、ゴミの分別の意識はまだ充分でない。	【成果指標】(生徒) 学校や家庭においてゴミの分別に対する意識が高まる。	学校版環境ISO意識調査でゴミの分別に心がけている生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。